

令和5年度習志野市総合防災訓練 (大地震想定) 成果

令和5年11月
危機管理課

総合防災訓練成果：その 1

成 果 全 般	<p>今年度の訓練は、「地域住民間の顔見知り以上の関係の構築」を軸に市内 24 会場で実施し、会場となる避難所に 2,470 名の市民参加を得た。特に、障がいを持たれている方が車椅子での参加や医療機器を携行した状態での参加など、「会場に来るのは大変だけど、自分を知ってもらうために参加した。」との意見をいただいた。</p> <p>併せて、令和 4 年度に引き続き感染症対策に重点をおいた訓練と地域住民からの要望を取り入れた個別課目訓練を実施し、全般を通じて、市民及び参加職員から貴重な意見を得るとともに再整備した機材の取り扱いや電源確保について、新たな課題となる事項等、多くの教訓を得ることができた。</p>
---------	--

防災訓練の概要

目 的	① 大地震想定による「災害時の行動や活動の習得」 ② 市民、市役所、関係機関が連携した、「自助・共助・公助の確認」 ③ 地域間でのコミュニケーションによる「地域住民間の顔見知り以上の関係の構築」 ④ 避難所開設・運営に重点（感染症対策⇒受付要領、避難生活空間の確保など） ⑤ その地域の要望を取り入れた個別課目訓練の実施		
日 時	令和 5 年 11 月 5 日（日）午前 9 時 00 分～午後 0 時 30 分（3 時間 30 分）		
会 場	24 か所 ／ 26 か所	市内公立小学校	14 校／16 校 ※屋敷小・向山小は、改修工事により使用不可
		市内公立中学校	7 校／7 校 ※応急救護所訓練を 1、2、7 中で同時に実施
		市内高等学校	3 校／3 校
訓練項目	市民防災力 向上訓練	1 市民初動	シェイクアウト、脱出口の確保、火災予防措置
		2 地区対策支部運営	安否確認情報の集約、安否情報・避難者情報を災対本部へ報告
		3 避難所運営	2 段階の受付・受入、感染症対策のパーティション組み立て
		4 個別課目	応急給水・救護・手当、初期消火、防災資機材の設置等
		5 医療的ケア児への対応	自宅からの移動、医療機器への充電・導通、トイレ体験
	医療本部・ 応急救護所訓練	6 医療本部との連携	応急救護所との通信確保、患者のトリアージ、病院との連携
参加機関 ・ 団体	国	陸上自衛隊第 1 空挺団第 3 普通科大隊、航空自衛隊中部高射隊第 1 高射隊	
	県	県企業局船橋水道事務所、県葛南地域振興事務所、県警察習志野警察署	
	市	市健康福祉部、市消防本部、市消防団	
	民間	N T T 東日本・南関東、東京電力パワーグリッド、日本大学生産工学部、医師会、歯科医師会、薬剤師会、助産師会、京葉地域獣医師会、アマチュア無線非常通信連絡会、タクシー協会、WOW! TOWN 幕張	

総合防災訓練成果：その2

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
避難所運営 訓練参加者数	継続	2、470名：24か所（R5年度）／1、991名：16か所（R4年度） ※4年度と比較すると参加数は増加しているものの、会場数を考慮すれば、0名の会場有
	継続	514名の市職員及び関係機関の方々が参加、新規の関係機関4団体が参加（協力） ①県警察習志野警察署が集団避難訓練対応 ②県助産師会が母子避難訓練対応 ③県葛南地域振興事務所（地域防災課）がトラック協会と連携してエアータント資機材を輸送し、東習志野小学校で展開 ④WOW! TOWN幕張が避難所における電源の確保として電源車を展示
会場の設定	継続	24か所とし、工事等で使用できない避難所以外は、実施 ※有事の際、どこの避難所でも開設できるように引き続き、27か所を前提として訓練を継続
会場ごとの 参加状況	継続	24か所の内、14か所を4年度に引き続き会場として設定 ※8か所で増加、6か所が減少（内4か所は減少数20名以下の微小で参加者数70名～190名規模）
	改善	新規の10か所において、3か所が0名～10名程度、7か所で40名～170名の参加 ※参加者が0名の会場は地区の小学校をメインとしているため、地域と調整し、会場を設定別紙「訓練会場ごとの参加状況」
市民初動	継続	地域（町会・自治会等）によって、安否確認の方法がわからないとの意見が有 ※研修会等を通じ、他町会等が実施している要領を紹介し、啓発
地区対策支部	調査	災害対策本部との連絡・報告において、一部の地区対策支部施設内において、防災行政無線移動系が「圏外」の地区が2か所あり、施設外（校庭等）で連絡を確保したため、報告に要した時間大 ※地区対：実籾小、東習志野小 ※避難所：谷津小、東習志野小、袖東小、香澄小、谷津南小、第一中、第三中、第六中、習高
	検討	学校職員よりも早く会場に到着し、セコムに気付かず渡された学校の鍵で開錠したため、警察とセコム対応が生起 ※事前に学校職員との当日の開錠等について要調整
	検討	全体的に避難所配備職員の人数が少ないと感じ、地区対策支部職員が応援、1～2名は多く配備してもよいのではとの意見有 ※避難所配備職員3名⇒4名、地区対策支部職員4名⇒3名の体制を検討

総合防災訓練成果：その3

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
避難所運営	検討	<p>地区対策支部に比べ避難所配備職員の負担が大、避難所の設置や資機材の準備及び避難者の対応を考察すると、3名での対応は大変厳しい</p> <p>※避難所配備職員3名⇒4名、地区対策支部職員4名⇒3名の体制を検討</p>
	改善	<p>避難所となる体育館が2階に設置されている場合、高齢者・足の不自由な方への支援要領及び1階での対応が必要</p> <p>※学校側と検討し、高齢者等の要配慮者対応の施設を調整し、マニュアルへ反映</p>
	継続	<p>普段から訓練が必要であり、年一度ではなくもっと回数多く（訓練回数年に2、3回）との希望有</p> <p>※次年度以降も同様の参加型防災訓練を継続・検討、地域主催の訓練等への参加も含め調整</p>
	改善	<p>受付後の避難所運営訓練や個別課目訓練への移行までの待機が長く、訓練統制が不十分</p> <p>※避難所配備職員のさらなる知識向上の為、避難所運営について研修等による知識付与</p>
個別課目	改善	<p>災害用トイレについて、昨年度ラップポン洋式タイプを整備したが、組立て方法や電源の確保について課題が発生</p> <p>※資機材の取扱要領の習熟及び不測時の資機材の活用方法の知識付与</p>
	継続	<p>初期消火、応急救護・手当については、初動時の基本的事項であり、高評価</p> <p>※今後は、ロープワーク等取り入れより充実感のある訓練を計画（今年度も一部地域では、ロープワークを実施、高評価を獲得）</p>
	継続	<p>今年度は、関係機関において新規参加団体が多数あり、参加者に対して災害時の対応や知識を付与</p> <p>※引き続き、災害時の行動や活動内容習得を狙いとして関係機関の増加を調整</p>
その他	継続	<p>第二中学校において、医療的ケア児と家族に対する対応の実施により課題を案出</p> <p>※避難所への移動、蓄電池に医療機器への充電、災害時のトイレ</p>

総合防災訓練成果：その4

細部訓練成果		
区 分	評価	内 容
アンケート 結果	継続	<p>避難所運営訓練及び個別課目訓練の参加者2, 470名の内、アンケート回答者1, 145名から貴重な意見・課題を確認</p> <p>※34名の20代と19歳以下及び143名の町会・自治会未加入者からも回答</p> <p>①勉強になった。ありがとうございました。</p> <p>②昨年よりいろいろ体験できてよかった。</p> <p>③今後も備えのために実施をお願いします。</p> <p>④心臓マッサージやAEDの使い方について知れた。</p> <p>⑤個別課目訓練の種類を増やして欲しい。</p> <p>⑥もしも、本当になったら教えてもらったやり方で身を守る。</p> <p>⑦消火器が1回につき、14秒しかもたないということが分かり驚きました。</p> <p>⑧今回初めて防災訓練に参加した。何も知らぬ状態だったんでとても勉強になった。</p> <p>⑨気候の上で今回の様に（9月より）11月の方がよかった。</p> <p>⑩3連休の日曜日は集まらない。</p> <p>⑪マイク等で拡声してもらえると聞き取りやすいと思う。</p> <p>⑫避難所に移動する途中のマンションが同じ避難所ではなかった。避難先は定期的に見直した方が良く考えている。</p> <p>⑬アナウンス・拡声器の声が通らず聞き取りづらい。</p> <p>⑭職員等、誰がどこにいるのか分かるようにすること</p> <p>⑮パーテーション等どのように並べるのか説明が必要</p>

総合防災訓練成果：その5

課 題		
連番	区 分	内 容
1	訓練会場の設定	参加者が0名や1名の会場があり、地域住民間の顔見知り関係の構築が図れない。 ※次年度は、訓練会場（避難所）が隣接している場所については、町会や自治会との調整により設定
2	避難所施設の確保	受付や資機材の組み立て等の避難所運営訓練が2階の体育館で実施されたため、高齢者など階段を移動するのに苦労していた。 ※高齢者・足の不自由な方への対応のため、1階での避難所施設の確保を調整
3	職員の体制	受付準備や資機材の搬出及び避難者への指示・統制などの初動を考慮すると避難所配備職員3名では対応が困難である。 ※現行3名を4名へ（事前受付係・総合受付係・居住空間設定係・物資係）
4	職員の識能	組立て方法や電源の確保要領及び各訓練統制が不十分な場面があった。 ※資機材の取扱要領の習熟及び不測時の資機材の活用方法など研修等による知識を付与
次年度市総合防災訓練への反映事項		
<p>1. 訓練型式 今年度同様に市内全域での参加型の訓練とし、令和6年4月末までに概定 ◆①市民アンケートを踏まえた訓練の継続、 ②災害時の行動や活動要領の習得及び③地域住民間の顔見知り以上の関係の構築による町会・自治会の防災力を向上</p> <p>2. 実施時期 令和6年11月【11／24（日）で調整中】 ◆雨や暑さを避け、市民が参加しやすい気候の時期を設定し、より多くの参加を企図</p> <p>3. 訓練会場 市内27か所（予定） ◆市立小学校：16校 ◆市立中学校：7校 ◆市立高等学校：1校 ◆県立高等学校：2校 ◆市立体育館：1館</p>		